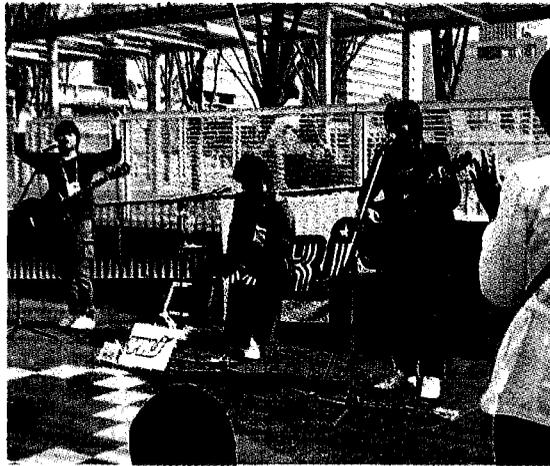


街角の音楽

若者の芸術活動を支援しようと県が始めた「埼玉ストリートミュージシャン」の登録者が、受け付けを始めた3月から約1カ月で25団体59人になった。登録者は4月から活動を開始。「安心して活動できる」と評判だ。県文化振興課も「滑り出しは順調」と手応えを感じている。(貞国聖子)

登録制快調

県ストリートミュージシャン支援



お年寄り・家族連れ 自由な演奏囲む輪

活動初日となった今日1日、さいたま市の「新都心けやきひろば」に、ギターやキーボードなどの楽器を持った16人の若者が集まった。青空のもと、ひろばを歩く通行人が、不思議そうに視線を向ける。坂本九さんのヒット曲「上を向いて歩こう」を女性フ

オーク歌手のE.M.I.さんがギターで弾き語ると、お年寄りも曲に合わせて体を動かして楽しんだ。次第に演奏者の周りに20人ほどが集まり、ベンチでくつろぎながら音楽を楽しむ家族連れもいた。県から登録証を受けた登録者は、「大音量を出す機材を使わない」などの規則に従って演奏する。「ごみの清掃」や「通路の確保」など、周囲への気配りも条件になっている。場所を提供する公園などの管理者と同課が話し合い、演奏する時間と場所を事前に決めていたため、トラブルはないという。

を中心に路上で演奏していた。県の登録制度を知り、すく申し込んだ。これまで苦情を言われたり、演奏を中止するよう警察から指導されたりした。「毎回、『いつ止められるか』とヒクヒクしながら演奏していた。でも登録制度のおかげで自由に演奏する場ができた」と喜んでいる。規則で、CDなどの販売は禁止されている。しかし、演奏するグループのマネジャーは「知名度のある場所で演奏できるし、人が立ち止まってくれるからいい」と話した。決められた場所に登録者が集まるので、「お互いが刺激になり、高め合える」良さもある。

ひろばで演奏するストリートミュージシャン11日、さいたま市の新都心けやきひろばで、県提供

地元出身の3人のバンドグループ「YKJ」はこれまで、県内の駅周辺

活動場所は、ひろば1、2階と、同市浦和区の北浦和公園の2カ所。ひろばは他のイベントの予定も入っているため、今回は火、水曜を中心に9日程度の提供となった。

現在も毎日のように登録の申し込みがあるといい、文化振興課は「今後、活動場所や時間を増やしたい」と、さらなる支援を考えている。